

令和 2 年度 異常気象分析検討会（第 2 回） 議事概要

1. 開催日時

令和 2 年 8 月 20 日（木）14：00～16：00

2. 開催場所

気象庁 886 共用会議室（気象庁庁舎 8 階）

※テレビ会議システムによる開催

3. 出席者

別紙 1 のとおり

4. 議題及び検討結果の概要

下記の議題について検討を行った。

（1）令和 2 年 8 月の高温とその要因について

資料 1 を用いて議論した結果、8 月に入り、全国的に平年より気温が高くなったことについて、以下の共通見解を得た。

- ・ 高温の要因として、太平洋高気圧と上層のチベット高気圧の日本付近への張り出しが強かったことが考えられる。
- ・ これにはアジアモンスーン域の対流活動が活発化したこと、亜熱帯ジェット気流が北上し、日本付近で北に蛇行したことが関連していると考えられる。

（2）令和 2 年 7 月の記録的大雨や日照不足の特徴とその要因について

資料 2 および資料 3 を用いて議論した結果、令和 2 年 7 月の記録的大雨や日照不足の特徴とその要因について、報道発表資料「令和 2 年 7 月の記録的大雨や日照不足の特徴とその要因について」（令和 2 年 8 月 20 日発表）¹のとおり見解を取りまとめた。

¹ <https://www.jma.go.jp/jma/press/2008/20a/kentoukai20200820.html>

令和2年度 異常気象分析検討会（第2回） 出席者

異常気象分析検討会 委員

◎	なかむら ひさし 中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター 教授
○	たかやぶ ゆかり 高薮 縁	東京大学大気海洋研究所 教授
	いしかわ いちろう 石川 一郎	気象研究所全球大気海洋研究部第二研究室長
	うえだ ひろあき 植田 宏昭	筑波大学生命環境系 教授
	かわむら りゅういち 川村 隆一	九州大学大学院理学研究院 教授
	きもと まさひで 木本 昌秀	東京大学大気海洋研究所 教授
	ひろおか としひこ 廣岡 俊彦	九州大学大学院理学研究院 教授
	ますもと ゆきお 升本 順夫	東京大学大学院理学系研究科 教授
	むこうがわ ひとし 向川 均	京都大学大学院理学研究科 教授
	わたなべ まさひろ 渡部 雅浩	東京大学大気海洋研究所 教授

（◎：会長、○会長代理、敬称略、会長・会長代理以外は五十音順）

（谷本 陽一 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授は欠席）

その他の出席者

つぼき かずひさ
坪木 和久 名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授

※以上、中村会長以外はテレビ会議システムを通じて参加

気象庁

地球環境・海洋部 部長、地球環境業務課長

気候情報課長、エルニーニョ情報管理官

異常気象情報センター所長、予報官

海洋気象課長、海洋気象情報室長

予報部 予報課主任予報官、数値予報課数値予報班長

気象研究所

台風・災害気象研究部第二研究室長

応用気象研究部第二研究室 主任研究官

その他関係官